

苦しんだ。悩んだ。闘った。
だから、あふれる^{よろこび}歓喜がある。

「第九」初演200周年記念

Beethoven und An die Freude

ベートーヴェンと
「歓喜の歌」展

2024 11.1金 → 12.27金

会場 | 創価大学中央教育棟1階エントランスホール<入場無料>

開館時間 | 9:00-18:00 ※11月1日のみ13:00から

主催 | 創価大学<制作=池田大作記念創価教育研究所>

後援 | ドイツ連邦共和国大使館/八王子市教育委員会

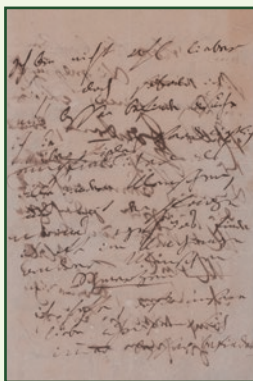
協力 | 東京富士美術館/民主音楽協会

日本初公開、多数。 貴重な史料からひもとく“創造の闘い”と“魂の凱歌”

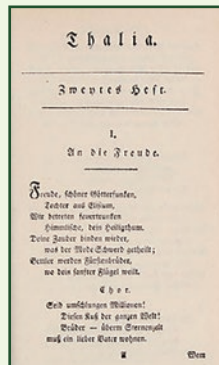
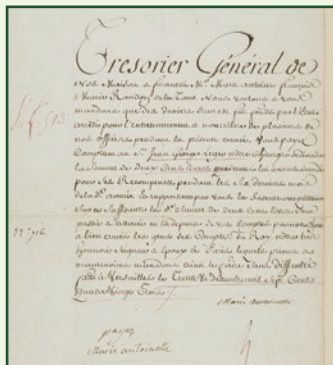
創価大学所蔵「ベートーヴェン自筆書簡(1815年9月)」を翻刻・翻訳し初公開! 「苦悩を突き抜けて歓喜へ」至る、“人間・ベートーヴェン”の人生の劇!

本学所蔵の「自筆書簡」、民音音楽博物館所蔵の自筆譜【復刻】、有名な「ハイリゲンシュタットの遺書【復刻】」など、貴重な史料を通じてベートーヴェンの軌跡を立体的に描きながら、その“知的探求”や“精神の闘い”といった人生の旅路の結実としての「第九交響曲」の実像を、新たな視点を交え、浮き彫りにする。

ベートーヴェン自筆書簡【本学蔵】(左)と
交響曲<運命>自筆譜復刻【民音蔵】



ボン大学の聴講生だった青年ベートーヴェンに大きな影響を与えた 激動の時代、そしてシラーの詩との出会い。 世界史に名を遺す同時代人たちの肉声を伝える貴重史料の数々!



フランス王妃マリー・アントワネットの書簡【富士美蔵】(左)と
シラー「歓喜に寄せて」初出誌「ターリア」【本学蔵】

ベートーヴェンが生まれ、才能を見出され、青春の日々を過ごしたドイツのボン。ボン大学の聴講生として、教授たちや読書会に集う人々との交流を深めた青年ベートーヴェンは、勃興する最先端の思想・哲学とその代表的人物、そして革命という“時代の鼓動”に触れ、やがて、シラーの詩「歓喜に寄せて」と運命的に出会う。本学と富士美が所蔵する“フランス革命の主役”たちの貴重な書簡などを通し、若きベートーヴェンの人間形成に大きな影響を与えた“時代と人々”を追う。

「労苦と使命の中にのみ人生の価値(たから)は生まれる」—— ベートーヴェンと本学創立者・池田大作先生の“響き合う魂”

敗戦直後の戦火で荒廃した東京。青春の苦闘の渦中にあった創立者は、ベートーヴェンを論じた名著をひもとき、その作品をレコードが擦り切れるまで聴いて自らを鼓舞した。のちにベートーヴェンをテーマとする多くのエッセイやスピーチを遺した創立者が、楽聖の波乱の生涯とその作品から何を感じ、何を学び、何を後生に託そうとしたのか。二人の“精神の交響”に迫る。



創価大学で開催された「第九」演奏会

創価大学への
アクセス

